

平成29年 8月 10日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

認定 NPO 法人 IVY  
代表理事 枝松直樹

### NGO相談員による出張サービス実施報告

NGO相談員による出張サービスを下記のとおり実施しましたので、ご報告いたします。

#### 記

1. 企画名：弘前大学国際理解ワークショップ
2. 【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（ワークショップ）】
3. 出張者氏名：安達三千代  
依頼元／主催等団体名：独立行政法人 国際協力機構（JICA）東北支部
4. 実施日時：平成29年7月18日（火） 10時20分～ 11時50分
5. 実施場所：弘前大学 農学生命科学部 弘前大学創立60周年記念会館コラボ  
弘大8F 八甲田ホール 〒036-8561 青森県弘前市文京町3
6. 参加者数：弘前大学農学生命科学部\*<sup>1</sup> 国際園芸農学科 食農経済コース1～3年の合計24名、准教授1名、JICA青森デスク 国際協力推進員1名
7. 実施内容：

世界の貿易に対するさまざまな課題を知り、貿易における格差、経済のグローバル化の影響について参加者が理解することを目的として、開発教育ワークショップ「貿易ゲーム」を行った。

後半は、「EU」への有機米輸出に取り組んでいるIVYのカンボジア事業\*<sup>2</sup>の紹介を通して、外務省、JICAおよびNGOの国際協力活動、ODAに対する理解促進を図り、学生の国際協力への関心を喚起した。

#### 1) 貿易ゲーム

集まった学生は1～3学年の合計24名。1グループ4名のA～Fグループに分かれて、それぞれのグループを「国」、参加者を「国民」として、制限時間60分の中で、力を合わせて自分たちの国の資金を増やし、各国の経済発展を競い合った。

ルールは、「資源」である紙を、ものさしやハサミ、コンパスなどの「技術」を用いて加工した「製品」を「マーケット」で売るだけ。シンプルなルールゆえに簡単にも思えるゲームだが、実はゲームの途中にあらゆる仕掛けが潜んでいるため、苦戦していた国が徐々に発展し始めたり、順調だった国が停滞したりと、世界の状況は目まぐるしく変化する。そして、ゲームを進めていくにつ

れて、実際に世界で起きているあらゆる問題や現状を体験していることに気づかされる。

参加した学生からは、

- ・実際にどこかの国の立場になり貿易を体験したことで、貿易を身近に感じることができた。
  - ・資源はあるけど技術がない国、技術はないけど資源がある国、といったリアリティが面白かった。
  - ・貿易は普段身近に感じない分、分かりにくいと思っていたが、このゲームはわかりやすかった。
  - ・国を動かしているのも、「人の気持ち」だと思った。
- といった感想が挙げられた。

ゲーム終了後は、各国の最終資金が発表され、それぞれの国の作戦や他国との交渉内容を共有した。最後のまとめとして、「環境問題」「格差」「市場価格の変化」といった貿易を取り巻くさまざまなキーワードを挙げ、体験した世界の諸課題をひとつずつ振り返った。

## 2) ODA に対する理解促進

後半は、ワークショップのテーマであった「貿易」とつなげて、フェアトレードの事例として、「EU」への有機米輸出に取り組んでいる IVY のカンボジアでの農業プロジェクトについてパワーポイントを使用して説明した。

このプロジェクトは外務省の日本 NGO 支援無償資金協力の助成を受けており、政府開発援助の一環であることも伝えた。

\*<sup>1</sup> 弘前大学農学生命科学部は 2016 年度に新しくできた学部であり、「食と国際化（グローバル化）」をキーワードとし、地方創生を意識しつつ、食に関する基本知識を持って食産業等にイノベーションを起こせる学生や海外研修等を通じ国際的な農産物の取引に精通した学生を育成する。」という方針のもと、JICA の草の根技術協力事業を行うなど、様々な取り組みを行っている。

\*<sup>2</sup> IVY のカンボジアにおける事業は、JICA 草の根技術協力事業（2002 年～2012 年）、外務省日本 NGO 連携無償資金協力事業（2013 年～）として実施している。

## 8. 所感

・ゲームが開始されると、「さあ、どんどん作って、どんどん売らしましょう」とファシリテーターは煽ることになっている。すると、どのグループも焦って、とにかく作れるものを作ってしまうおうと手を動かし始める。ところが、今回は私がどんなに煽っても、最初の何十分か、学生たちの動きがほとんどないのには少し焦った。各グループにこっそり理由を聞いてみると、「あとで製品の値段が上がるかもしれないから、今はまだ動かない」など、実は慎重で思慮深い、

農学部 of 学生らしい一面がうかがえた。

・今回、交通事業の都合で偶然、前日現地入りすることとなり、それならばということで、貴重な時間を生かし、推進員や担当の先生とじっくり打合せを行ったり、青森県や弘前大学でどのように国際協力を推進していくか、助言したり、話し合うことができた。その結果、それぞれからも下記のようなお礼のメールをいただいた。

「かなり評判がよかったので、来年度開講する講義「農産物貿易論」でこのゲームを行うことにしたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。」

「今回を機に、夏休み明けに計画している同学内 JICA ボランティア募集説明会や、来年度に向けてのモチベーションに繋がりました。今後とも何卒よろしく願いいたします。」

・弘前大学は遠いが、特に「農業」を通じて、今後「国際協力」のつながりを作っていきたい。

### 写真

	
<p>持てる資源で製品を作り始める参加者</p>	<p>道具をゆずってほしいと他国と交渉する「外務大臣」</p>
	
<p>最後に貿易を取り巻く「用語」を使い、ゲームのふりかえりを行う相談員。</p>	<p>貿易と関連づけ、ODA (N 連) 事例紹介として、IVY のカンボジア事業を説明。</p>

以上

平成 29 年 7 月 14 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(特活)国際協力 NGO センター  
理事長 谷山博史 印

### NGO相談員による出張サービス実施の報告

NGO相談員による出張サービスを下記の通り実施いたしましたので、ご報告申し上げます。

#### 記

1. 企画名:国際協力人材セミナー in 東京
2. 出張者氏名:山田直樹
3. 主催団体名:独立行政法人国際協力機構(JICA)
4. 実施日時:平成 29 年 7 月 8 日(土) 10 時 00 分~12 時 30 分
5. 実施場所:JICA 市ヶ谷ビル(東京都新宿区谷本村町 10-5)

#### 6. 企画の概要

##### 1) 実施内容

国際協力分野でのキャリアを考えている来場者に対し、求められる人材や職種、待遇面や情報入手の方法など、NGOへの就職を目指す上で必要とされる知識や心構えなどについて情報提供および相談対応を実施し、国際協力およびNGOに対する理解促進をはかった。以下、対応詳細。

- ・ 相談対応件数:12 件
- ・ 主な相談者層:学生、社会人(社会人が過半数)
- ・ 主な相談内容:
  - NGO への就職を通してのキャリア形成
  - NGO インターンに関する探し方といった団体が募集しているのか
  - NGO 職員(駐在員)募集の現状と応募方法

##### 2) 所感

- ・ 今回は、国際協力人材セミナーということで、NGO だけではなく、国連職員、JICA、開発コンサルなどのセッションも他時間で開催されていたため、国際協力全般の就職に関して関心ある方が多く、相談内容も NGO 就職だけではなく、国際協力分野全般でのキャリア形成やキャリアア

ップを念頭においての相談が多かった。

- ・ 例年は学生からの相談が多かったが、本年度は社会人から具体的な NGO での活動や課題に関する質問もあり、社会人の中でも NGO に対する関心が高まっている事が認識でき、情報を伝える事ができた。
- ・ 今後も継続的に本イベントのような場で、NGO・国際協力分野で働きたいという相談に対応することにより、国際協力についての情報を伝えることは、本出張サービスの重要な役割と言える。

## 7. 交通費精算:なし

会場の様子:



(イベント看板)



(ブース出展の様子)

以上

平成 29 年 8 月 8 日

## NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名：「メディアで見ないシリア」

開催日時：①平成 29 年 7 月 11 日（火）10 時 30 分～12 時 00 分

②平成 29 年 7 月 12 日（水）10 時 30 分～12 時 00 分

主催者：学校法人永原学園西九州大学短期大学部

場所：①西九州大学佐賀キャンパス（佐賀県佐賀市神園 3 丁目 18-15）

②西九州大学神崎キャンパス（佐賀県神崎市神崎町尾崎 4490-9）

出張者：特定非営利活動法人難民を助ける会東京事務局スタッフ ラガド・アドリー

参加者：①学生 46 名 ②学生 158 名

実施内容：

11 日、12 日いずれも内容は以下の通り。

シリア難民問題と国際支援、国際協力についてスライドと動画を使用し説明。

①シリア内戦前のシリアの古い歴史、風土、文化、四季ならびに豊かな市民生活を紹介、女性の選挙権、女性の活躍についても説明。

②内戦前、多くの難民を受け入れていたシリアが、第二次世界大戦が生み出した難民を数で上回る難民を出すに至った経緯を説明。

③トルコにおける難民支援活動を紹介。

④今後の復興を支えるシリアの子どもたちの教育の重要性について訴求。

⑤シリアの現状を知り、自分たちにできる支援を考えて欲しいと訴え。

所感：

現場を持つ NGO から生の話を聞く機会に乏しい佐賀において、シリア出身の NGO スタッフが、母国の過去と現在を多くの画像や動画を紹介しながら説明したことにより、国際社会の課題とこれに取り組む日本の団体の活動を学生が深く理解する良い機会となった。多くの難民を出すに至ったシリアが、実は多くの難民を受け入れていた、寛容で多様な社会であったこと、および豊かな自然と高い文化と平安な日常があったこと、そしてそれが内戦で失われたこと、一日も早くかつてのシリアの平和な暮らしを取り戻したいというシリアスタッフの思いが学生にインパクトの強いメッセージを伝えたものと思われる。

今回の講演が、学生にとって、国際社会課題と国際協力について考えるきっかけとなり、国際協力分野での活躍が将来のキャリア・パスの選択肢に加えられることを願う。

写真 7月11日



7月12日



平成 29 年 8 月 8 日

NGO 相談員による出張サービス実施報告

特定非営利活動法人 難民を助ける会

企画名： 東海大学国際理解講座「海外の難民支援の現場から」講師派遣

開催日時：2017 年 7 月 12 日（水）13 時 25 分～14 時 55 分

主催者： 東海大学教養学部国際学科（非常勤講師：木下理仁）

場 所： 東海大学湘南キャンパス 13 号館

出張者： （正・副・その他）特定非営利活動法人難民を助ける会 北朱美

参加者数：74 名

実施内容：

国際協力や NGO について学ぶ東海大学の 1 年生および 2 年生を対象として、海外での難民支援をテーマに、当会がパキスタンにおいて実施している活動について紹介した。講義では、未だ多くのアフガニスタン難民がパキスタンに居住している背景や、パキスタンにおけるアフガニスタン難民の生活状況、当会が実施する支援の詳細について説明した。出張者がパキスタンで駐在員として活動した経験をもとに、アフガニスタン難民に関連する政治的な問題や支援活動の難しさ、パキスタンの治安情勢についても紹介した。また、アフガニスタン難民問題に関連付けて、昨今の世界的な難民問題についても触れた。当会がパキスタンにおいて実施する事業は、日本 NGO 連携無償資金協力により実施しているため、日本政府による ODA 資金がどのように国際協力 NGO に活用されているかについても説明した。

会場では学生から多くの質問を受け、当会がパキスタンで支援活動を開始した背景、駐在員の業務内容、パキスタンでの安全対策、帰還した難民が直面する問題、NGO で働く場合と国際機関で働く場合の違い等、質問の内容も多岐にわたった。講義後は、学生の進路に関する個別相談も受けた。

所感：

講義の後、引き続き参加した授業では、「難民支援における難しさ、難民支援を通して得られる成果、難民支援で配慮すべき点、今自分たちにできること」について学生がワークショップ形式で話し合った。その後の学生の発表では多くの意見が出され、講義の内容を十分に理解、整理してもらっていたことが分かった。国際協力の現場で実際にどのようなことが行われているのかわからない、という声も参加

者から聞かれたため、出張サービスを利用し、NGO の活動や経験を直接伝えられたことは大変意義深いものであった。国際情勢、国際協力、NGO の活動について、今後もより多くの方々の関心を高めていきたい。

講義会場全体の様子



講義の様子



講義後のワークショップで、学生から質問に回答する様子



## NGO相談員による出張サービス実施報告書

1. 企画名:「国際協力NGOと農村開発 ～ラオスの事例から」

【形態:相談対応サービス・**講演**・セミナー・その他( )】

2. 実施者:木村 茂(日本国際ボランティアセンター ラオス事業担当)

3. 実施日時:平成29年7月17日(月)14時50分～16時20分

4. 実施場所:広島修道大学 大塚キャンパス(広島県広島市安佐南区大塚東1-1-1)

5. 参加者:約 100 名

6. 実施内容:

①概要:広島修道大学法学部国際政治学科の授業「国際NGO論」では、主に開発途上国の現状と日本の国際協力について取り扱い、特に日本のNGOによるさまざまな国際協力活動について焦点をあてて学習し、またグローバル社会で発言する世界の様々な政治経済に関わる問題に対する日本のNGOの役割について理解することを目的としている。特に広島はUNITARの事務所を擁する国際平和都市で、被爆地広島の復興をモデルとしたさまざまな途上国支援プロジェクトが進められる地でもあり、また広島は北部に過疎化に直面する農村地帯を抱えており、そのような状況を踏まえ、上記授業では「東南アジアを事例とした農村開発と国際協力」のテーマを扱った。

当日は、日本と東南アジアの歴史的な関わりから経済面での関わりに始まり、そこから国際協力という側面での日本のODA及び日本の諸NGOの取り組みの事例を紹介した。また、当団体のラオス及びタイでの農村開発活動の事例から、地域住民との信頼醸成の方法およびその難しさについて紹介することで、国を超えて他国に関わる国際協力の意義と同時に、その困難さについても伝えた。また、日本のラオスとの様々な社会的指標(男女の平均寿命、識字率、乳児死亡率、森林率、など)の違いを紹介・比較することで、当地を訪れたことのない参加者でも現地の様子をよりイメージしやすくなるよう工夫した。

②所感および効果:参加した学生からは、「日本と異なり、ラオスの乳児死亡率の高さに驚いた」「大切なことは、いかに相手のことを知り理解するか、それによって関係性が変わることを学んだ」「日本の将来の発展のために、国際的な交流の重要性を感じた」など

といった感想が寄せられた。上記のような感想から、日本の国際協力の取り組みの大切さと、他国への理解の重要性が伝わったものと期待できる。

以上

#### 7. 別添(写真)



授業では、約講演

JVC の成り立ちや、イラクを含む 9 カ国での活動について説明

## 2017 インターナショナル・フェスティバル in カワサキ における NGO 相談員ブース出展 出張サービス報告書

**実施団体**：開発教育協会／DEAR

**日時**：2017年7月2日（日）10：00～16：30

**場所**：川崎市国際交流センター（川崎市中原区木月祇園町2番2号）

**事業名**：2017 インターナショナル・フェスティバル in カワサキ

**主催団体**：公益財団法人 川崎市国際交流協会

**実施内容**：相談対応（相談ブース出展・ワークショップの実施）

2017 インターナショナル・フェスティバル in カワサキにおいて、フェアトレードや国際協力、開発教育や国際理解教育に関する相談ブースを出展した。開発教育や国際理解教育、教材や資料等に関心のある川崎を中心とした住民や学生等からの相談や照会を受け付けた。

### 所感および効果：

イベントでは川崎を中心とした市民団体、特に外国にルーツのある方々が所属する団体の展示や発表、フェアトレード商品の販売等が行われた。屋外では食事の販売もしており、当日の天候もよかったことから、非常に多くの人でにぎわっていた。当会としては、相談対応とは別に「世界と自分たちの繋がりを考える」というワークショップも実施し、子どもから大人まで多くの方が参加して下さった。

相談ブースへも数十人の来客があった。客層は子どもから大人まで幅広く、各年齢や興味に沿って様々な話をした。また外国にルーツのある方々もたくさん訪れてくださり、日本の国際協力や日本の学校教育における国際理解教育に関する情報交換をした。

教育学部に通う大学生からは、国際協力の要素を取り入れた授業実践についての質問を受け、開発教育についての説明をした後、当会の教材とイベントを紹介した。

最近 NGO 活動に興味を持ち始めたという一般の方からは、どのようにしたら仕事をしながらでも活動に参画できるのかという質問を受け、ネットワーク NGO のパンフレットを見せながら、各団体で実施しているイベントやボランティアの内容を説明した。当会で実施しているイベントを始め、色々な団体のイベントに参加してみたいとのこと、自分自身でさらに調べてみたいとのことだった。



平成29年7月20日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

特定非営利活動法人アイキャン  
代表理事 田口 京子

### NGO相談員出張サービス実施報告書

NGO相談員による出張サービスを実施いたしましたので、下記の通りご報告致します。

#### 記

1. 企画名：岐阜県立池田高等学校全校生徒に対する講演（形態：講演）
2. 実施者：特定非営利活動法人アイキャン 吉田文
3. 日時：平成29年7月11日（火） 14時15分～15時05分
4. 場所：岐阜県立池田高等学校体育館（住所：岐阜県揖斐郡池田町六之井242-1）
5. 参加者：池田高等学校全校生徒 477名
6. 実施報告：

岐阜県立池田高等学校全校生徒に対して「ユネスコスクールとしての国際貢献とキャリア教育」というテーマのもと、全校生徒477名を対象に講演を行った。まず、フィリピンのマニラ首都圏やミンダナオ島、イエメンやジブチにて当団体がともに活動を行う、路上生活をする子どもや、紛争地や難民キャンプに暮らす人々が置かれた過酷な現状や課題について、具体例を用いて紹介し、それらに対するNGOの役割や活動の意義、世界規模の課題に対し高校生としてできることをお伝えした。また、「キャリア教育」というテーマを踏まえ、NGO職員としての仕事のやりがいや大変さなども伝えた。参加者からは「現場を見ている人でないと聞けないような具体的な話を聞くことができ、深刻さが伝わった。」「現状を変えるためにできることをやらなければいけないと感じた」などの感想をいただいた。その他、NGOへの就職方法や進路選択などの具体的な相談も受けた。今回の出張講演を通じ、高校生の国際社会への貢献に対する意識を醸成するとともに、今後のキャリア形成における視野を広げることができたと感じている。

#### 7. 写真



以上

## 外務省 NGO 相談員 出張サービス報告書

相談員 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

### <概要>

企画名：楽遊会 7月例会

イベントの種類：講演

実施日時：平成29年7月14日（金） 18時30分～20時00分

出張者氏名：大豊 盛重

主催団体名：楽遊会

場所：京都市男女共同参画センター ウィングス京都

〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町 262 番地

### <実施内容>

京都の企業や市民ボランティアを対象とし社会貢献や市民活動などについて話し合う異業種交流会の毎月1回開催される例会にて、アフリカにおけるNGOの役割について講演を行った。具体的には、日本NGO連携無償資金協力で実施されたマラウイ共和国での保健医療プロジェクトについて、現地で当事業を運営したスタッフ大豊が、現地住民や行政と協力して活動した内容について写真や模型を用いて解説した。

一般市民、経営者にアフリカにおける日本のNGOの役割について理解を深める機会を提供することが出来た。

### <集客人数または相談対応件数>

12名

### <所感及び効果等>

参加者は日本のビジネス界や行政でご活躍された方々で、戦後からの日本社会での問題を継続的に体験されてこられたため、途上国の問題に共感を持たれていた。講演の後には、質問やご意見が寄せられた。特に人間の便や尿を農地に還元し、公衆衛生の改善も行えるトイレの普及活動については、日本の農業と通じるものがあり、大変関心が高かった。また、母子保健活動なども関心が高かった。農業や母子保健は国が違ってても基本的な考え方が同じで生活に密着しているため、問題を共感してもらいやすい話である。現場で活動する日本人スタッフへの労いの言葉もあった。日本の発展を支えてこられた方々に、今現在日本が途上国で行っている援助活動について知っていただくことが出来た。

<活動風景（写真記録）>



京都市男女共同参画センター ウィングス京都

平成 29 年 7 月 7 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会  
理事長 水野 雄二

### 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「一市民が参加しうる草の根的な国際協力活動」  
※出張形態:講演

2. 出張者:坂西卓郎((公財)PHD協会)

3. 実施日:2017年7月5日(水)13時20分～14時50分

4. 場所:神戸女学院大学  
(西宮市岡田山4-1 教室:D-206)

5. 対象者 :学生109名

#### 6. 実施報告:

神戸女学院大学文学部総合文化学科の1年生を対象に NGO 相談員として講義を行った。科目名はボランティア論 I で、国際協力活動と社会貢献活動としてのボランティアをテーマに授業を行った。

内容としては「一市民が参加しうる草の根的な国際協力活動」についてであり、「国際協力といいますと、海外留学の経験があり、英語が堪能で、世界銀行や国連機関で活躍している人、、、といったイメージが付きまといますが、一市民として草の根的に活動する大切さをお伝えいただけたらと思います」という要望を受け、参加しやすい活動、キャリアなどについて講義を行った。

まずキャリアとしては NGO スタッフとして坂西、NGO のインターンとして当会の国内研修生、最後に国際協力の受益者として当会の研修生の半生を語りながらキャリアの具体例を提供した。

市民が参加できる国際協力としては国内での事務作業や使用済み切手の収集などの従来の活動を紹介しつつ、SNS を通じた拡散や NGO の応援方法などについても言及した。

学生の反応としてはやはり SNS を通じた拡散に興味を持ったようで、講義終了後に話を聞きに来る学生が数名いた。今回は大学1年生という事で、今後の学生生活において国際協力、市民ができる活動という点をインプットできたことは意義があったと思われる。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を2枚添付

①神戸女学院大学での講義の様子



②神戸女学院大学での NGO 相談員を PR している様子



平成 29 年 7 月 13 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会  
理事長 水野 雄二

### 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 企画名:「神戸学院大学での国際協力の講演」  
※出張形態:講演
2. 出張者:坂西卓郎((公財)PHD協会)
3. 実施日:2017年7月6日(水)15時30分～18時00分
4. 場所:神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス  
(神戸市中央区港島 1-1-3)
5. 対象者 :学生43名

#### 6. 実施報告:

神戸学院大学社会貢献実習 I の授業にて NGO 相談員として講演を行った。本授業では社会貢献活動として「ボランティア」、「NPO」、「ソーシャルビジネス」、「CSR」が定義されている。今回は NGO 相談員として「ボランティア」、「NPO」に関して現場の声を生徒に伝えて欲しいという依頼を受けた。

まず内容としては現場の NPO、NGO の運営、ボランティアの実態ということで、PHD 協会及び NGO データブック2011を例に取り上げながら NGO の運営について解説を行った。特に活動のポリシーや社会貢献の部分は重点的に解説を行った。

次に子どもの児童労働の問題について触れ、国連の子どもの権利条約やミャンマーでの児童労働の実態などについて説明をした。最後にこの流れから「子どもは学校に行くべきか？行かなくてもよいか？」という問いを学生たちに議論してもらう予定であったが、最終的に担当教員と協議した結果、問いを変更した。変更した内容は「PHD 協会の活動をケーススタディとして捉え、NGO の活動をより発展、促進するためのアイデア出し」とした。

時間が大幅に延び、学生たちの議論を見届けることは叶わなかったが、今までの授業でも議論をしてきたそうで、活発に議論が行われている様子であった。

今回の授業では社会貢献のアクターの一つとして NPO、NGO の概説や活動、事例などを紹介した。現場の声を直接生徒の方に伝えることで、視野を広げる役割は果たせたことと思う。本事業の参加者が今後国際協力に参加してくれることを期待したい。

## 7. 添付画像:別紙に当日の様子を1枚添付

①神戸学院大学での講義にて NGO 相談員制度を説明している様子



平成 29 年 7 月 31 日

外務省国際協力局  
民間援助連携室長 殿

(団体名)公益財団法人PHD協会  
理事長 水野 雄二

### 相談員企画型出張サービス実施報告書

1. 1. 企画名:「平和のつどい」  
※出張形態:ブース出展
2. 出張者:上石景子((公財)PHD協会)
3. 実施日:2017年7月29日(土)10時00分～12時30分
4. 場所:生活文化センター2階ホール  
(神戸市東灘区田中町 5-3-18)
5. 対象者 :イベント参加者 180 名

#### 6. 実施報告:

「平和のつどい」は、戦争を体験した高齢者が次世代に平和の大切さを伝え続けることを目的として講演を行い、「平和ってどんなときに感じるんだろう」「平和に暮らすために私たちにできることは？」等、子どもからお年寄りまでが共に平和と国際協力について考えるイベントである。第二次世界大戦の戦争体験やその悲惨さを知ることが趣旨であったが、プログラムの中では地雷や紛争など、国際協力に繋がる現在の国際問題にも話が及び、「地雷ではなく花をください」の絵本の読み聞かせもあった。参加者は180名で、高齢の方が大半であったが、家族連れや学生の姿も見られた。

相談員ブースは今回、平和と国際協力というテーマに興味を持った参加者に向けて、国際協力活動やNGOの情報提供を行うことを目的に設置した。総相談件数は6件で、地雷の撤去や紛争の解決に関する質問があり、当会の経験や事例をもとにお答えさせていただいた。また、NGO相談員とは何かという、相談員制度自体への質問もあった。そういった質問に対しては、NGO相談員のチラシをお渡しし、制度の説明をして、広報及びPRに努めた。

今回、多くの参加者は「平和」をテーマとしたイベントに集った参加者たちで、国際協力に関して強い関心を抱いているわけではない方が多かったと思うが、そういった方々に、NGOの平和に対する取り組みを知っていただけたのは貴重であったと思う。

7. 添付画像:別紙に当日の様子を2枚添付



①相談員ブースの様子



②会場全体の様子



③相談対応中の様子

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

(特活) 関西 NGO 協議会

1. 企画名：『香里ヌヴェール学院』における国際課題、国際協力 NGO、SDG s 等に関する講演及びワークショップの実施
2. 実施者：谷川詩織 / (特活) 関西 NGO 協議会
3. 日時：2017 年 7 月 7 日 (金曜日)
4. 場所：香里ヌヴェール学院高等学校 (大阪府寝屋川市美井町 18-10)
5. 参加者：生徒約 40 名、教員 1 名
6. 実施報告：

### <内容>

前半にワークショップを実施。身近なスマートフォンを切り口として、私たちの生活と世界の問題（紛争など）とのつながりについてワークシートを用いてその構造を理解するとともに、解決のために自分たちができる行動を考えるグループワークの時間を設けた。後半には講義を通じて、類似の構造をもつ事例（チョコレートと児童労働など）を紹介。世界の現状や課題と私たちの生活との様々なつながり、身近な国際協力手段としてフェアトレードを紹介をするとともに消費者である私たちの持つ力を伝えた。また、SDGs などの世界の流れ、社会課題の解決のために活躍している NGO について、具体的な団体の活動を紹介し、国際協力分野全体への理解を深める内容とした。

### <所感>

ワークショップにて紛争鉱物とスマートフォンの問題を解決するために「自分たちにできること」を考えたグループワークの中では、「鉱物の最低取引価格を設定してはどうか」「テレビ CM や SNS など広く国際問題と生活のつながりを伝えられないか」などのアイデアが出ており、高校生たちは、経済の構造が行き過ぎないための対応策の必要性や、問題を広く知らせる必要性をしっかりと認識し解決策を考えていた。また、その後の講義の中でフェアトレード商品など自分たちの生活の中でできる国際協力につながる選択を知り、国際課題や国際協力活動を身近に感じることに繋がった。

7. 別添 (写真)



以上

## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：広島修道大学「国際政治経済論 I」での講演
2. 実施者：山上正道（特活）AMDA 社会開発機構
3. 日時：平成29年7月4日（火）14時50分～16時10分
4. 場所：広島修道大学 大塚キャンパス 広島県広島市大塚東 1-1-1  
(アストラムライン「広域公園前」駅より徒歩 10 分)
5. 参加者：46名
6. 実施報告：

講演を通じて、学生に国際協力や NGO/NPO 活動、開発途上国の現状や課題を伝え、途上国で NGO が実施する ODA プロジェクトや、外務省と NGO のパートナーシップについて当団体の実例に基づいた情報を提供した。

日本の NGO による海外での活動を学ぶことを通して、学生が NGO に対する関心や興味を持つきっかけとなり、理解を深める出張サービスになったと考える。

7. 別添（写真）



## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：「世界の中のわたしたち」での講演
2. 実施者：山上正道（特活）AMDA 社会開発機構
3. 日時：平成29年7月14日（火）16時30分～18時00分
4. 場所：ノートルダム清心女子大学 講師 小笠原ヒロ子  
（〒700-0013 岡山市北区伊福町2丁目16-9 当団体事務所より徒歩15分）
5. 参加者：世界の中のわたしたち履修生約21名+教員1名
6. 実施報告：

「世界の中のわたしたち」履修生21名に、講演を通じて、NGO/NPO が行う国際協力活動、開発途上国の現状や課題を伝え、途上国でNGOが実施するODAプロジェクトや、外務省とNGOのパートナーシップについて当団体の実例に基づいた情報を提供した。

また、学生がすぐにできることとして、岡山県内外のボランティア、インターンや国際協力イベントの紹介、過去に学生が関わった活動の事例紹介などを行った。学生のレポートにはボランティアに参加したい、開発途上国について関心を持ち関わりたい、貧困などに取り組んでいるほかの団体についてもっと知りたい、などが書かれており、日本のNGOによる海外での活動を学ぶことを通して、NGOに対する関心や興味を持つきっかけとなり、理解を深める出張サービスになったと考える。

7. 別添（写真）



## NGO 相談員出張サービス実施報告書

1. 企画名：「人権啓発フェスティバル 2017」における相談対応・情報発信  
【形態：相談対応サービス・講演・セミナー・その他（情報発信）】
2. 実施者：高山 莉菜（特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク）
3. 日時：平成 29 年 7 月 30 日（日）11 時 00 分～15 時 30 分
4. 場所：松山市総合コミュニティセンター（愛媛県松山市湊町 7 丁目 5 番地）
5. 相談対応件数：6 件
6. 実施報告：市民の人権尊重意識の普及・高揚を目的とした人権啓発事業の一環として、松山市が主催する本イベントにおいて、相談員ブースを出展し、市民への国際理解・国際協力に関する相談対応、情報提供を行った。また、人権・福祉の分野は SDGs の目標の中にも位置づけられていることから、特に今回は SDGs に関連する情報の掲示とともに本制度のチラシ・ポスター掲示を行い、参加者への情報発信を行った。

### [主な対応内容]

- ① 

相談内容
対 応

 NGO 相談員制度とは何か。  
チラシを活用して制度の内容について説明した。全国に相談員受託団体があり、当団体が四国ブロックの担当をしていることを紹介し、無料で実施できる出張サービス制度についても情報提供した。
- ② 

相談内容
対 応

 国際協力活動の事例を知りたい。  
四国の国際協力 NGO の活動内容をまとめた冊子「四国・国際協力と ODA」を活用して情報提供するとともに、外務省が発行している ODA 関連資料を提供した。
- ③ 

相談内容
対 応

 発展途上国の教育の現状について知りたい。  
世界の女性に焦点を当てた資料を活用し、識字能力、小学校就学率などの世界各国の現状について数値を確認しながら情報提供した。

7. 所感および効果：本イベントには、人権教育・福祉等の分野に関心のある市民・団体が多数参加しており、各ブースでは主に国内における活動紹介が行われた。そんな中、本出張サービスで相談員ブースを設置し、四国の国際協力団体や ODA 等に関する情報発信ができたことで、参加者の国際協力活動への理解促進につなげることができたと考えます。

## 8. 別添（写真）



NGO 相談員ブース



相談対応の様子